

せいしょうなごん  
まくらのそうし  
清少納言と  
枕草子

レベル 初中級

【簡約】佐竹那月、吉田理乃、

伊東優希、安倍菜々香

【挿絵】佐竹那月、吉田理乃



『枕草子』は、清少納言という女の人を書きました。

清少納言は、天皇の后(妻)のお世話をしたり、勉強を教えたりしていました。

清少納言が『枕草子』を書いたのは、今からだいたい千年前。

自然や人びとを見て感じたことを心のままに書いています。

ここで、『枕草子』の文章を一つ紹介します。



春はあけぼの。

やうやう白くなりゆく山際すこしあかりて、

紫だちたる雲の細くたなびきたる。

(春は、ゆつくりと朝になる時がすばらしいわ。)

山の周りが少し明るくなってきました、

紫色の雲が、細く横に揺れているのがいいのよね。)



まくらのそうし

ふる ほん はじ

まくらのそうし

はじ ぶんしやう

これは、『枕草子』というたいへん古い本の始まりです。『枕草子』の初めの文章では、  
春・夏・秋・冬について、思ったことを書いています。ここでは、春の文章を紹介しました。

はる

にほん

ゆうめい

とろ おかし

か

はる ぶんしやう

しやうかい

いま にほんじん

「春はあけぼの」は、日本でもとても有名です。遠い昔に書かれたものですが、今の日本人にも清少納言の気持ちがよく伝わってきます。

せいしやうなごん

はる

あせ

いちばん

い

よる

あせ

か

やま

清少納言は、春は朝になるときが一番すばらしいと言います。夜から朝に変わるとき、山の周りの空が明るくなって、紫色の細い雲が空に見えます。そんな美しい空を文章にし

ました。

やさしい日本語で読む日本文学  
『児のそら寝』『清少納言と枕草子』

2023年3月1日発行

発行 宮城学院女子大学 学芸学部 日本文学科

印刷 株式会社 フロット

許可なしに転載・複製することを禁じます。